

令和7年度第2回高松市地域学校協働活動研修会報告書

■目的：地域学校協働活動を推進するためのキーパーソンとなる地域学校協働活動推進員(コーディネーター)の役割や人選、活動の状況等について情報を共有し、共に学び考えることにより、実践に向けた見通しをもつことを目的とする。

■開催日時：令和7年11月13日（木）13時30分～16時25分

■会場：高松市総合教育センター 1F 多目的洋室

■参加人数：40名

■受講対象者：学校運営協議会委員、教職員、コーディネーターやその候補者、上記以外の学校関係者・地域住民等

■研修内容

1. 講義：香川大学 地域人材共創センター 講師 大村 隆史 氏
「社会関係資本論から考える地域学校協働活動のあり方」

2. ワークショップ（モデル校コーディネーターとの意見交換）
亀阜小学校コーディネーター 天野 雄一朗 氏
鬼無小学校コーディネーター 田所 智志 氏
古高松南小学校コーディネーター 藤澤 茜 氏
川東小学校コーディネーター 石川 恵美 氏
木太小学校コーディネーター 天野 由佳 氏
下笠居小学校コーディネーター 奥池 長伸 氏
国分寺北部小学校コーディネーター 白井 邦彦 氏

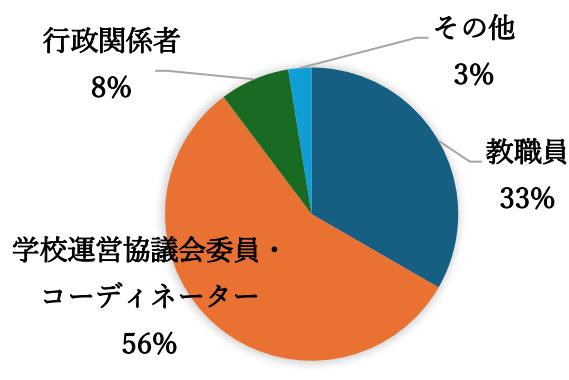
3. 全体交流・質疑応答

4. 事務連絡

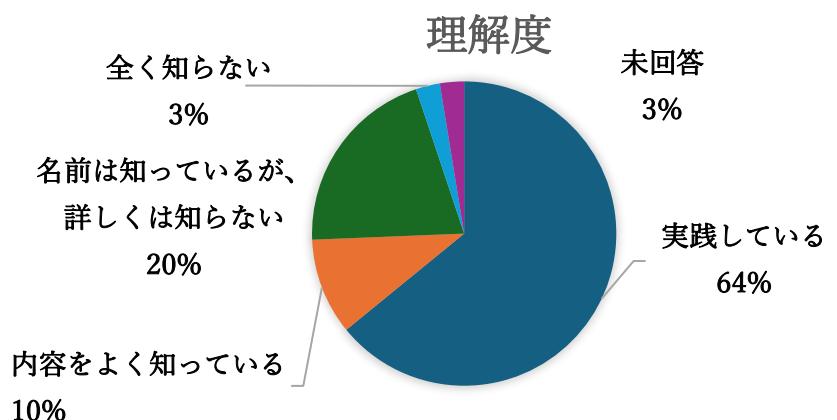
■ アンケート結果 (回答数 39 名 (回答率 97.5%))

<集計結果>

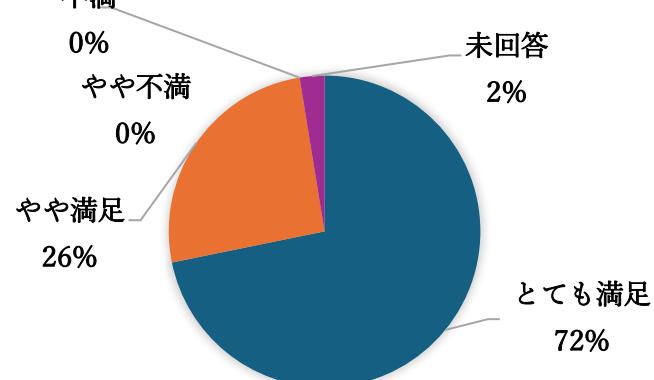
参加者の所属



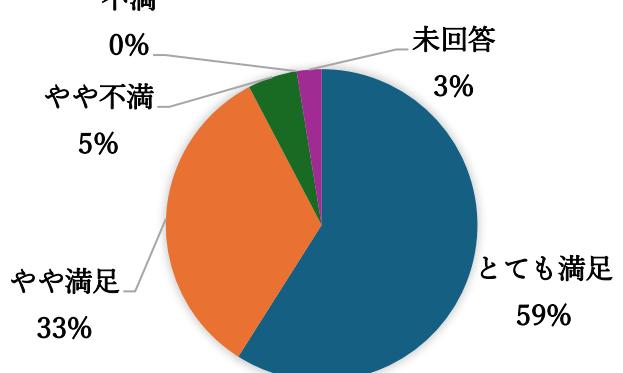
研修前の地域学校協働活動に関する理解度



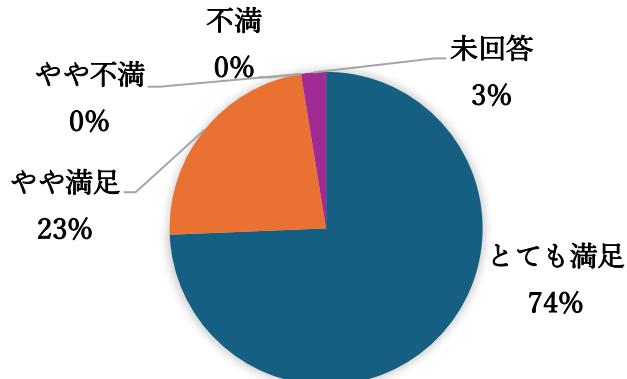
研修全体の満足度



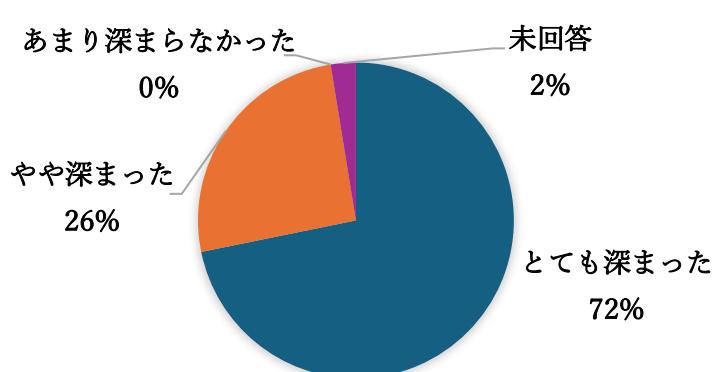
講話の満足度



グループワークの満足度



理解度の深まり



<主な感想等>

- ・コーディネーターには地域での経験とコミュニケーション能力の高さが求められるとお話を聞くことで学びました。研修の構成がとてもよかったです。各地域の情報を知ることができました。
- ・全市民の理解を取り付ける機会が必要かもしれない。
- ・社会関係を資本として考える考え方がとても面白いなと感じました。学校の立場だけで考えるのではなく、地域にとって何がいいのかを十分に考え、協議していく必要があるなと感じました。
- ・本校は現在地域コーディネーターがいない状態であるが、今日の話を聞いて、どういう人をコーディネーターとしてお願いすればよいか見えてきたように思うので、今日の研修は大変有意義であった。
- ・どんどん広がって、学校の人材不足の解消や、教員の負担減にまでつながればいいなと思っています。
- ・自分がブースを回って、コーディネーターの話を聞きたかったです。同じような話を3回繰り返すのは結構きつかったです。飯山南や栗熊の取組についても実際にコーディネーターの話が聞けたらうれしいです。
- ・人とつながることの大切さを実感しました。地域の方がわくわくしているのがとても頼もしく、協働することの楽しさや喜びを教員も共に味わえたらいいなと思いました。
- ・各学校の取組を聞けて良かったです。地域の特色、環境を活かした活動など勉強になりました。自分自身ができることをもっと積極的に行っていきたいと思います。
- ・研修会ありがとうございました。参考になることが多くあり、また地域に持つて帰り実践に活かしたいと思います。
- ・講話は少し言葉が難しかった。具体的な実践が聞けてとても参考になり楽しかった。
- ・様々な実践事例をお聞きして視野が広がった。
- ・授業日なので教諭に参加してもらいにくかった。各校に来てもらって研修をしてもらいたいと思いました。ありがとうございました。
- ・大変参考になる話もあり良かったです。
- ・学校とコミュニティーとの関わりのあり方の研修、実例
- ・他校の様々な活動やそれに至るご苦労、功を奏した方策など、いろいろ教えていただいて大変参考になった。それぞれの立場でできることを、未来を見据え取り組まれていることに感動し、できるところから始めたいと思いました。
- ・皆さんの意見を聞いて、私の今後の活動に役立てたい。

- ・自校だけではわからない取組を理解することができた。とても楽しかったし、アイデアがわいてきた。
- ・学校運営協議会との連携がやはり大切になってくると思った。コーディネーターの方の難しさも知ることができ、学校・地域のつながりづくりについて考えるよい機会となった。
- ・大村先生から「一人親世帯の増加はソーシャルキャピタルの衰退を意味するか？」との投げかけがありましたが、答は「否」だと思います。戦争で父母を失った私の母によると、昭和20年代は親が二人そろった家庭は必ずしも多くなかったそうです。地域の様々なコミュニティーの包容力の問題、核家族がいかにつながりを持とうとするかの意思の問題だと思います。
- ・地域↔学校間で連携しながら子どもたちを育てる協働活動を行っていることを初めて知りました。様々なコーディネーターの方のお話を聞く中で地域の特色によって取り組んでいる内容や事業が全く異なっているのが面白かったです。行政としてどのようなことができるのか考えていきたいと思いました。
- ・自分の地域がもっとすきになりました。
- ・モデル事業がそれなりに活動されている所は結果が出ていると思います。学校がどこと一緒に活動するかがポイントだと思いました。
- ・時間がもう少しあれば、3校区だけでなく、他の校区の方のお話を聞くことができたらよかったです。
- ・昼休みの地域の方の見守りを広めます。